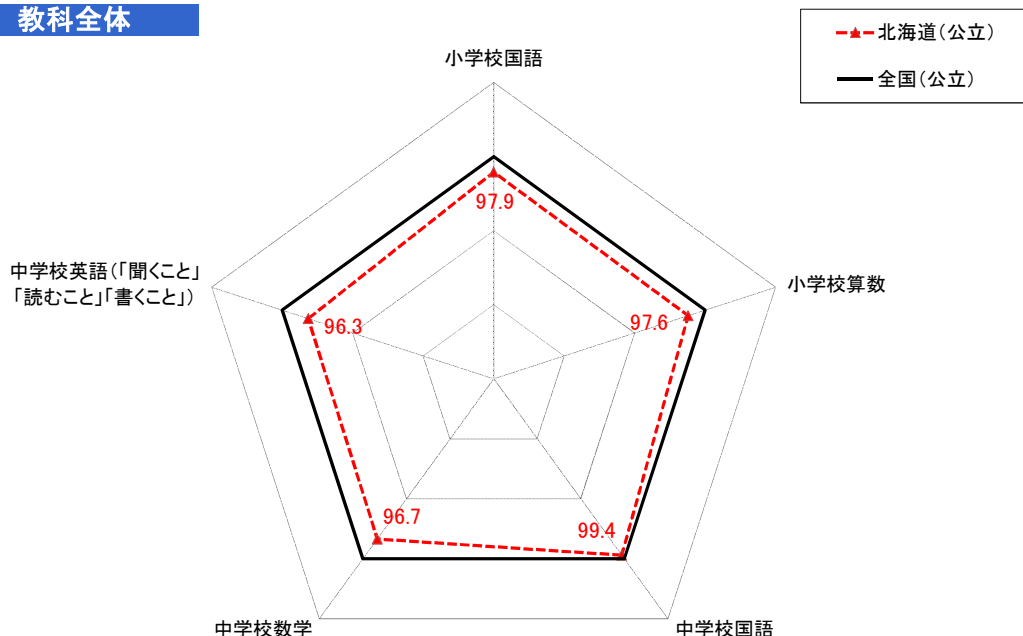


2 調査結果のレーダーチャート図

教科に関する調査における本道の結果について、全国を100としたときの本道の状況をレーダーチャートにより示しています。また、質問紙調査における本道の結果について、特徴が見られる項目を取り上げ、同様に示しています。

(1) 小・中学校全教科

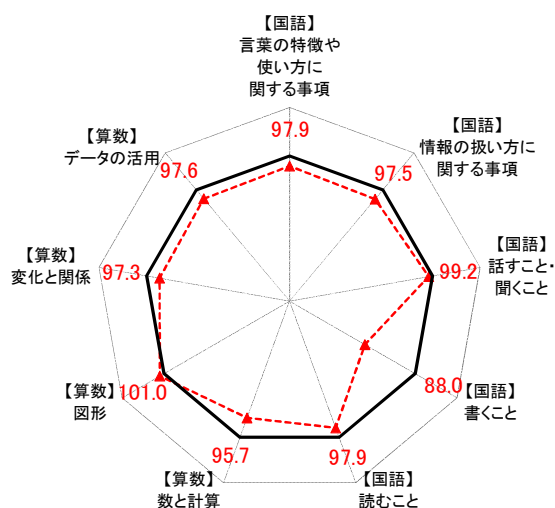
ア 教科全体



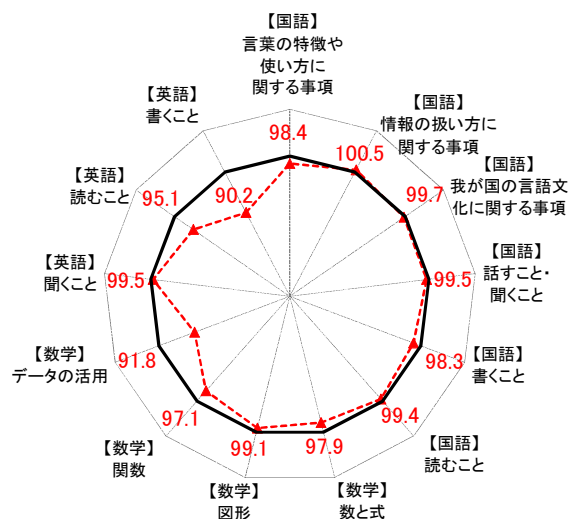
◆小・中学校ともに、全ての教科で全国を下回り、中学校国語が最も全国との差が小さい。

イ 学習指導要領の内容・領域等

小学校



中学校



- ◆小学校では、国語の全ての領域及び事項で全国を下回り、「話すこと・聞くことの領域」が全国との差が最も小さい。
- ◆小学校では、算数の「図形の領域」が全国を上回っている。
- ◆中学校では、国語の「情報の扱い方に
関する事項」が全国を上回っている。
- ◆中学校では、数学の全ての領域で全国を下回り、「図形の領域」が全国との差が最も小さい。
- ◆中学校では、英語の全ての領域で全国を下回り、「聞くことの領域」が全国との差が最も小さい。

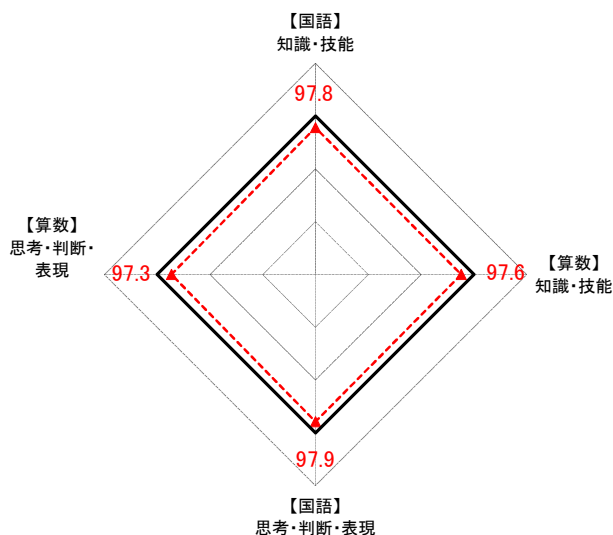
※ 国語は学習指導要領の領域及び事項、算数・数学、英語は学習指導要領の領域。
 ※ 小学校国語「我が国の言語文化に関する事項」については、対象設問がないため、表示していない。
 ※ 小学校算数「測定」については、対象設問がないため、表示していない。
 ※ 中学校英語については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のみ公表。
 ※ 数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出。

ウ 評価の観点

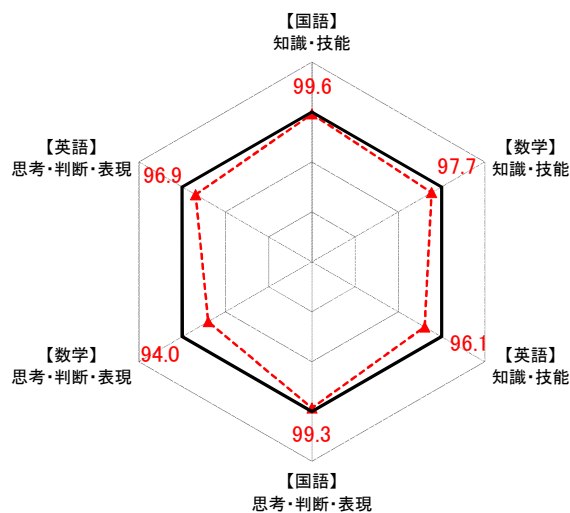
—▲— 北海道(公立)

— 全国(公立)

小学校



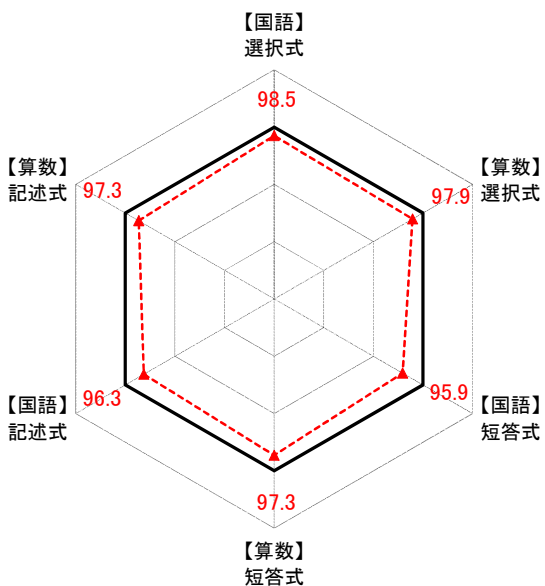
中学校



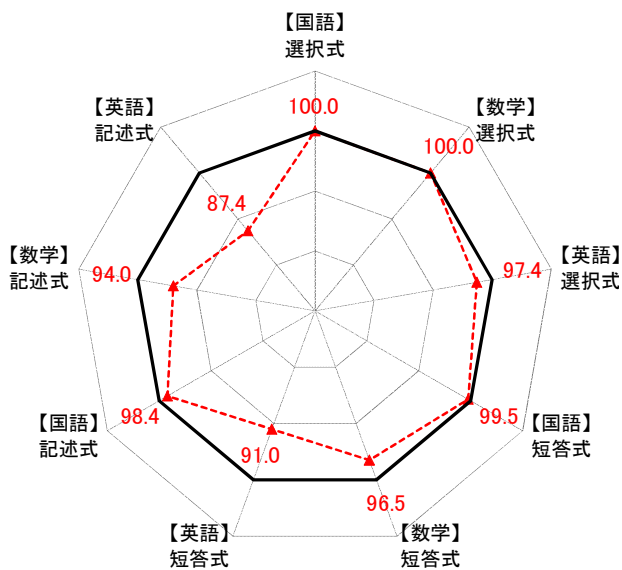
◆小・中学校ともに、全ての教科の「知識・技能」「思考・判断・表現」で全国を下回り、中学校国語の「知識・技能」が最も全国との差が小さい。

エ 問題形式

小学校



中学校



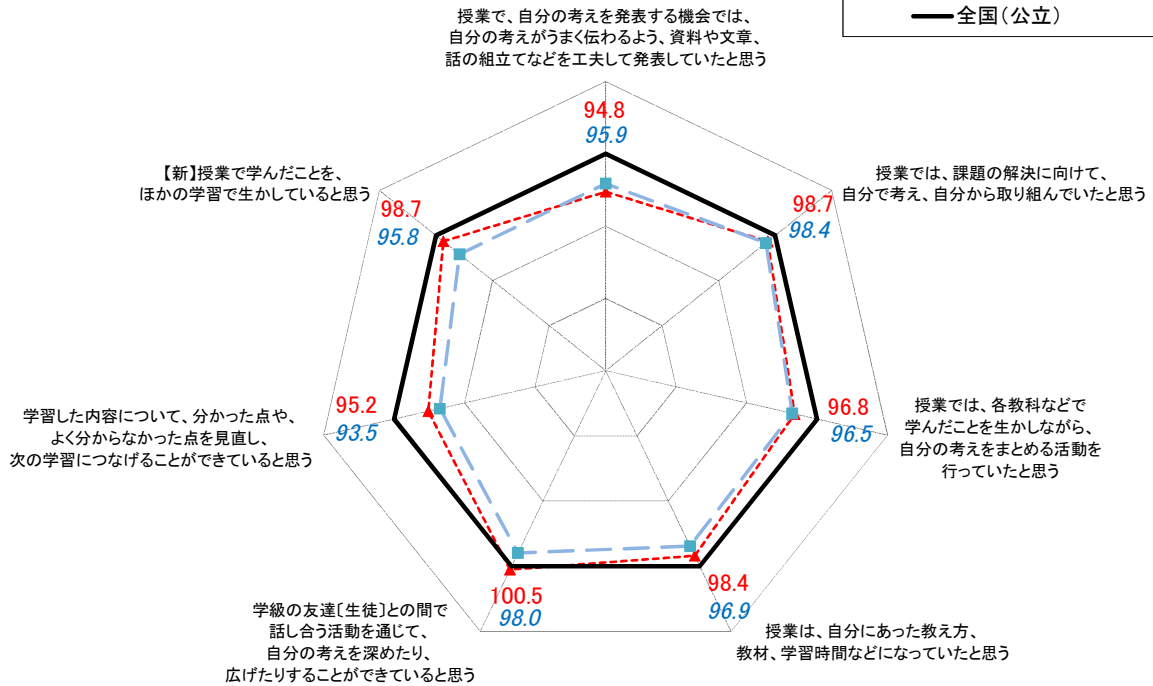
◆小学校では、全ての教科の全ての問題形式で全国を下回っており、国語の「選択式」が最も全国との差が小さい。
◆中学校では、国語と数学において「選択式」が全国並である。

※ 小学校及び中学校の全ての教科「主体的に学習に取り組む態度」については、対象設問がないため、表示していない。
※ 数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出。

(2) 小・中学校 児童生徒質問紙調査

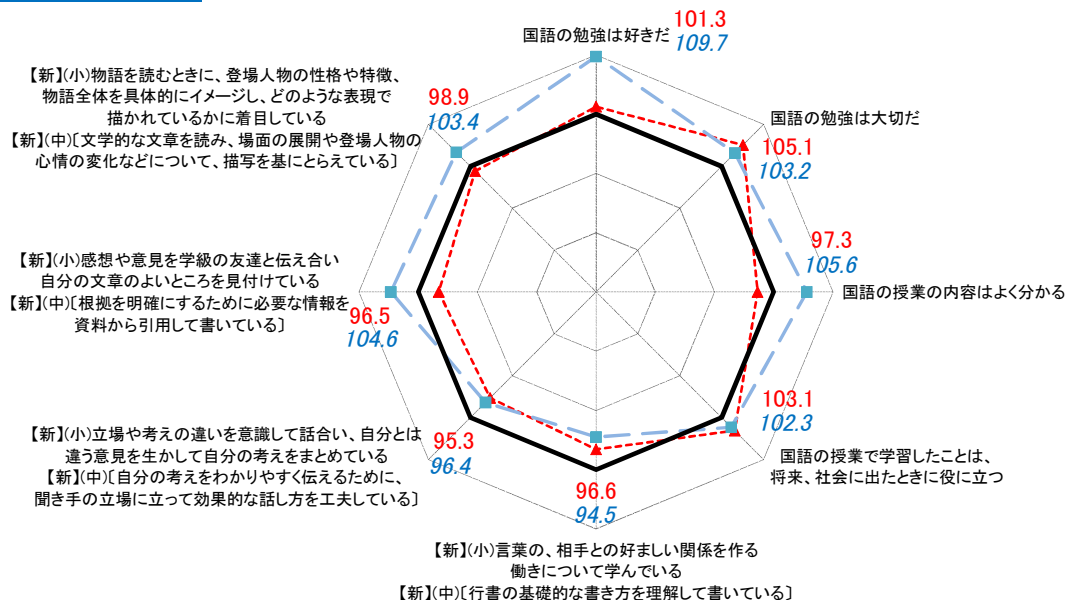
※中学校の項目は〔 〕、数値は「斜体」

ア 授業改善に関する取組



- ◆小学校では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童の割合が、全国を上回っている。
- ◆中学校では、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うと回答した生徒の割合が、全国に最も近付いている。

イ 国語の学習

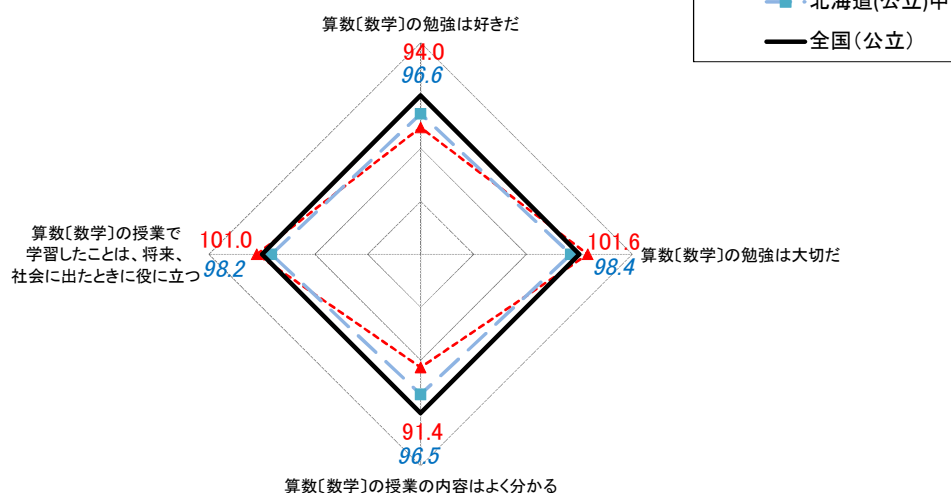


- ◆小学校では、国語の勉強は大切だと回答した児童の割合が、全国を上回っている。
- ◆中学校では、国語の勉強は好きだと回答した生徒の割合が、全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。

※ 数値は、「それぞれの児童生徒の割合÷全国（公立）の児童生徒の割合×100」で算出。

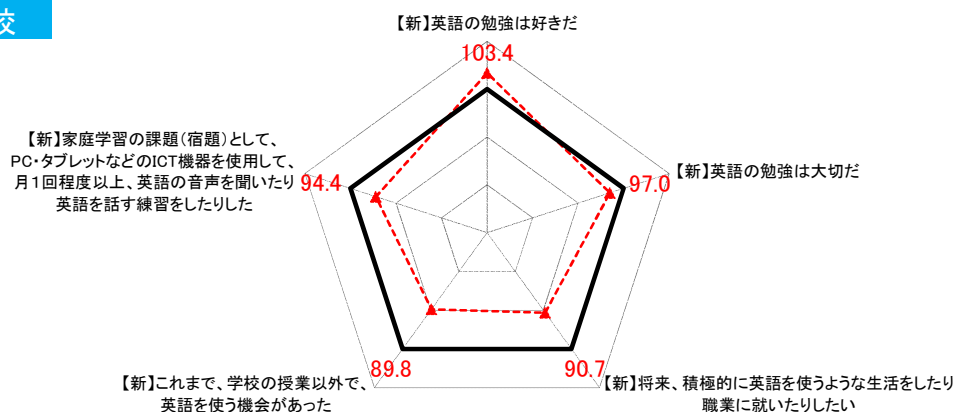
ウ 算数[数学]の学習



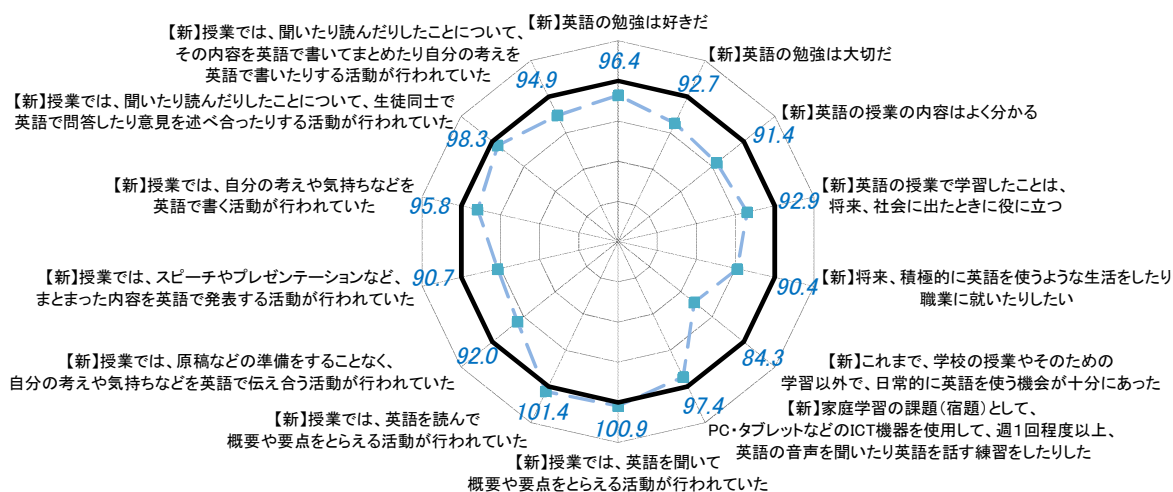
- ◆ 小学校では、算数の勉強は大切だ、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が、全国を上回っている。
- ◆ 中学校では、数学の勉強は大切だと回答した生徒の割合が、全国との差が最も小さい。

エ 英語の学習

小学校



中学校

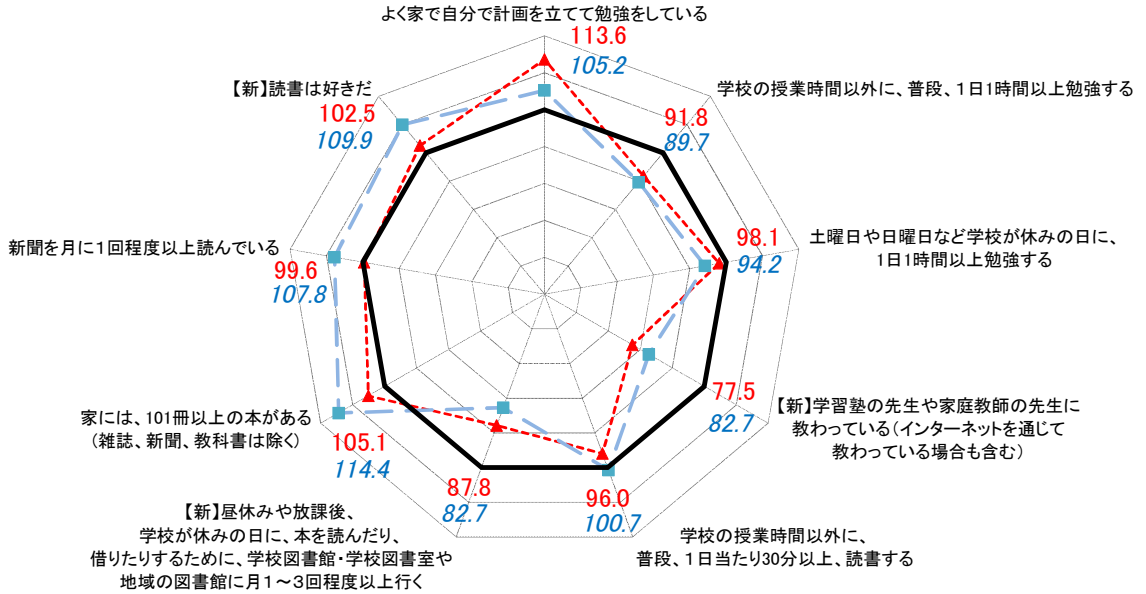


- ◆ 小学校では、英語の勉強は好きだと回答した児童の割合が、全国を上回っている。
- ◆ 中学校では、授業では、英語を読んで概要や要点をとらえる活動や、英語を聞いて概要や要点を捉える活動が行われていたと回答した生徒の割合が、全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。
 ※ 数値は、「それぞれの児童生徒の割合÷全国(公立)の児童生徒の割合×100」で算出。

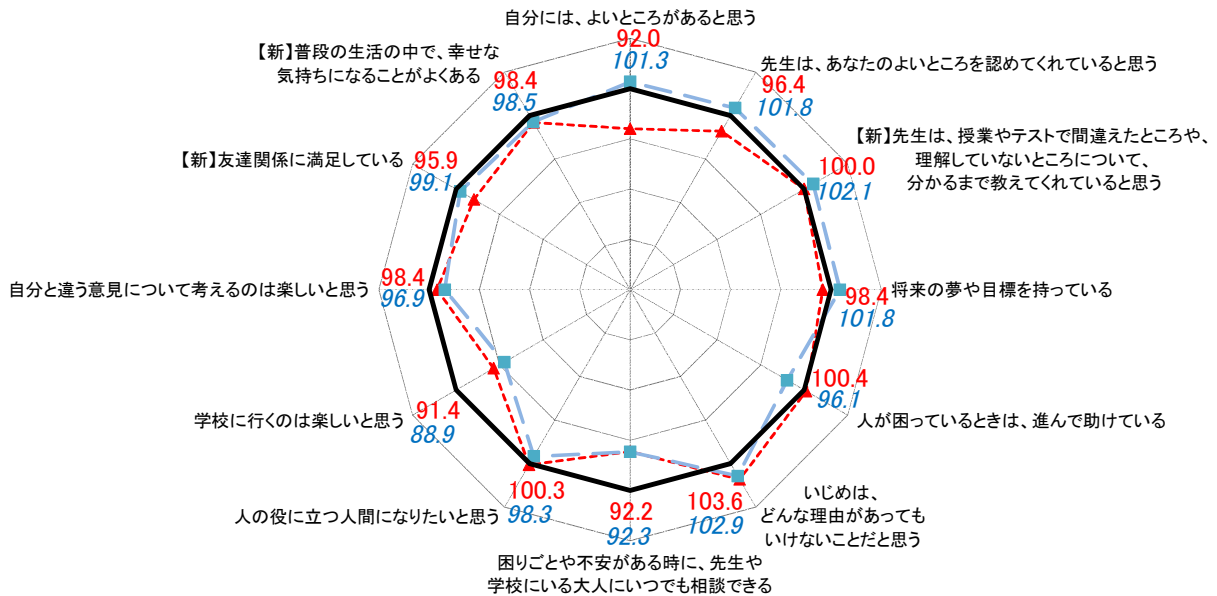
才 学習習慣、学習環境等

--▲-- 北海道(公立)小
--■-- 北海道(公立)中
— 全国(公立)



- ◆ 小学校では、よく家で自分で計画を立てて勉強をしている、家には101冊以上の本がある、読書が好きだと回答した児童の割合が、全国を上回っている。
- ◆ 中学校では、家には、101冊以上の本がある、読書は好きだ、新聞を月に1回以上読んでいる、よく家で自分で計画を立てて勉強をしている、学校の授業時間以外に、普段、1日当たり30分以上、読書すると回答した生徒の割合が、全国を上回っている。

力 規範意識、自己有用感、幸福感等



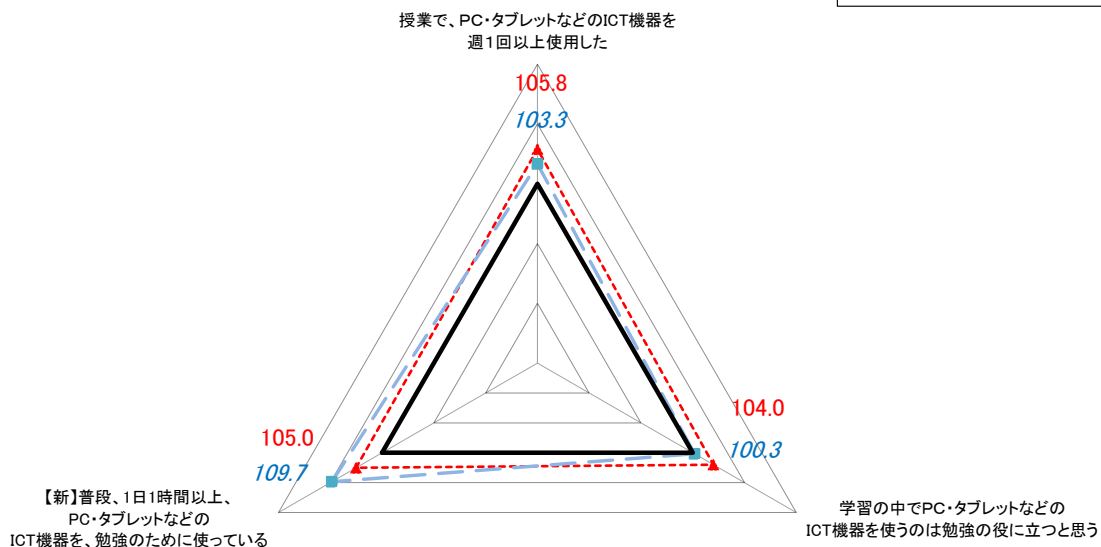
- ◆ 小学校では、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う、人が困っているときは、進んで助けている、人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した児童の割合は、全国を上回っている。
- ◆ 小学校では、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した生徒の割合が、全国と同じである。
- ◆ 中学校では、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う、先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う、将来の夢や目標を持っている、自分にはよいところがあると思うと回答した生徒の割合が、全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。

※ 数値は、「それぞれの児童生徒の割合÷全国(公立)の児童生徒の割合×100」で算出。

キ ICTを活用した学習状況

- 北海道(公立)小
- 北海道(公立)中
- 全国(公立)



- ◆ 小学校では、ICTを活用した学習状況に関する全ての質問項目で、全国を上回っている。
- ◆ 中学校では、ICTを活用した学習状況に関する全ての質問項目で、全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。

※ 数値は、「それぞれの児童生徒の割合÷全国(公立)の児童生徒の割合×100」で算出。

コラム

～教育とウェルビーイング～

第4期教育振興基本計画では、ウェルビーイングの向上を基本方針の一つに掲げています。

ウェルビーイングとは？

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

第4期教育振興基本計画(R5.6.16 閣議決定)より引用

教育に関連するウェルビーイングの要素

- | | | | | | |
|-------|---------|---------|-----|--------------|-------------|
| 自己肯定感 | 心身の健康 | 幸福感 | 協働性 | 社会貢献意識 | 学校や地域でのつながり |
| 自己実現 | 安全安心な環境 | 多様性への理解 | 利他性 | サポートを受けられる環境 | |

- 全国学力・学習状況調査には、これらに関連する質問項目がありますので、各市町村教育委員会や各学校において、自地域や自校の状況を分析する際の参考としてください。

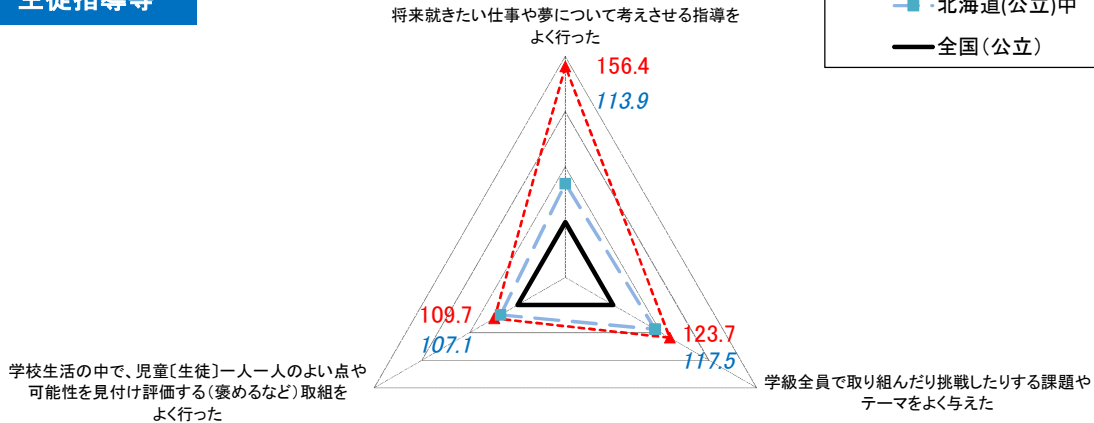
質問項目(例)

- 勉強は好きだ(国語、算数・数学、英語)
 - 自分には、よいところがあると思う
 - 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある
 - 友達関係に満足している
 - 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
 - 学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている
- など

(3) 小・中学校 学校質問紙調査

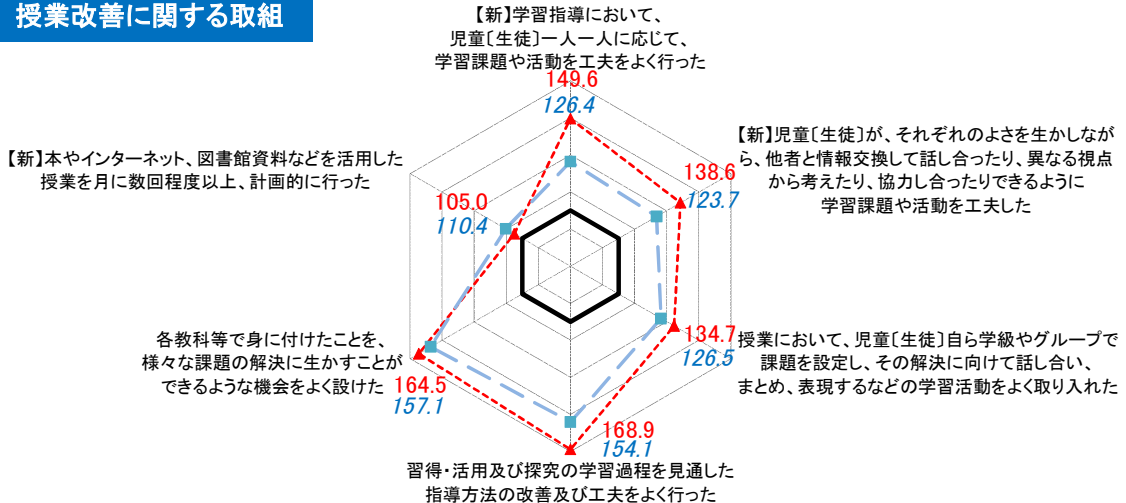
※中学校の項目は〔 〕、数値は「斜体」

ア 生徒指導等



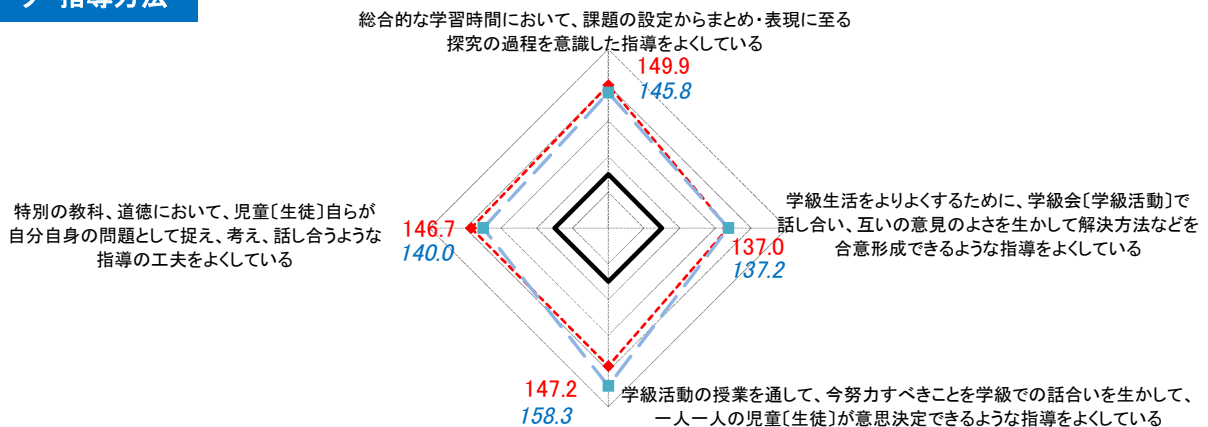
◆小・中学校ともに、生徒指導等に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、全ての項目で全国を上回っている。

イ 授業改善に関する取組



◆小・中学校ともに、授業改善に関する取組に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、全ての項目で全国を上回っている。

ウ 指導方法



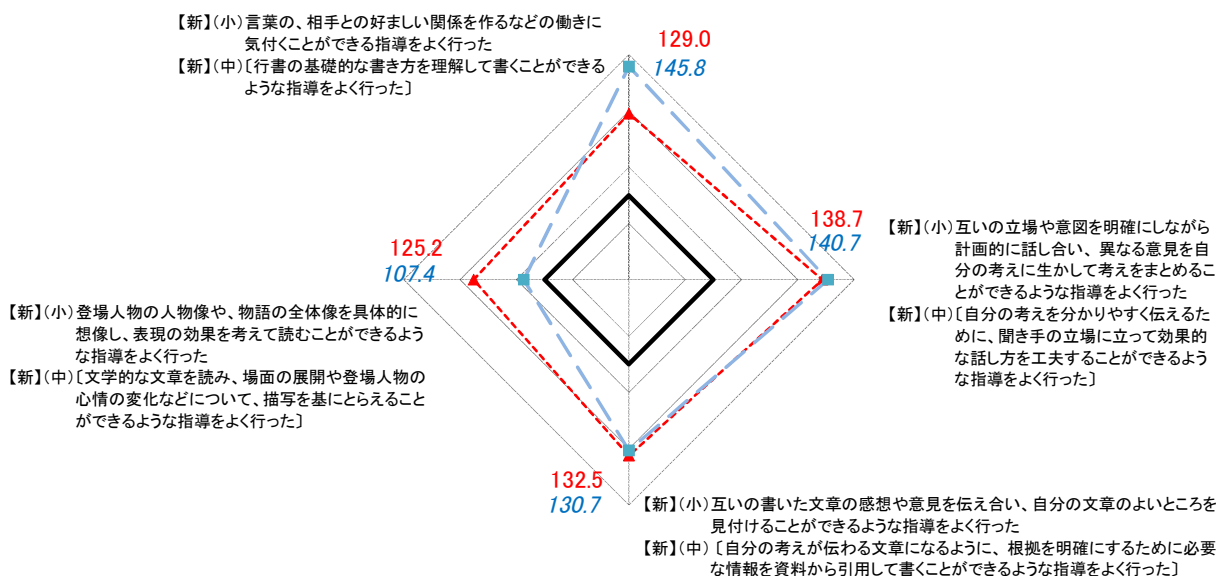
◆小・中学校ともに、指導方法に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、全ての項目で全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。

※ 数値は、「それぞれの学校の割合÷全国（公立）の学校の割合×100」で算出。

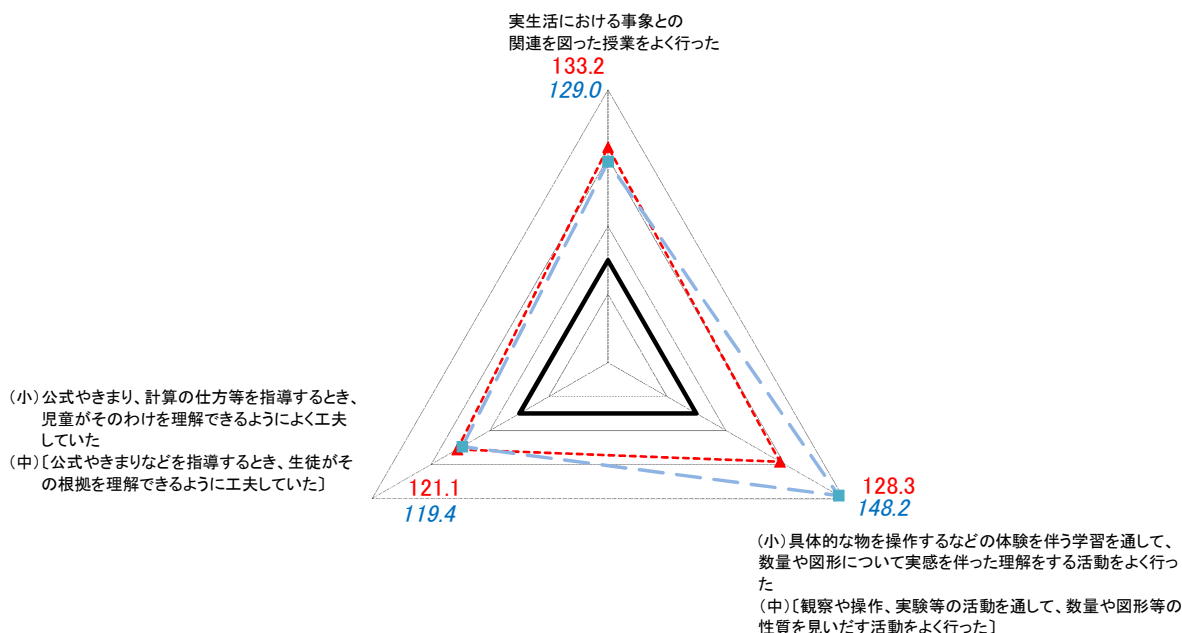
エ 国語の指導方法

-▲- 北海道(公立)小
-■- 北海道(公立)中
— 全国(公立)



◆小・中学校ともに、国語の指導方法に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、全ての項目で全国を上回っている。

オ 算数[数学]の指導方法



◆小・中学校ともに、算数[数学]の指導方法に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、全ての項目で全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。

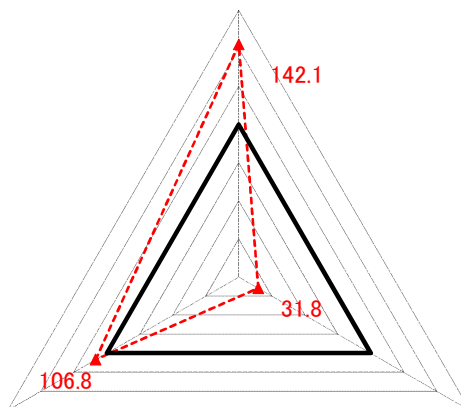
※ 数値は、「それぞれの学校の割合÷全国(公立)の学校の割合×100」で算出。

カ 英語の指導方法

小学校

—▲— 北海道(公立)小
— 全国(公立)

【新】学校として外国語教育の充実に
取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を
十分に設けている



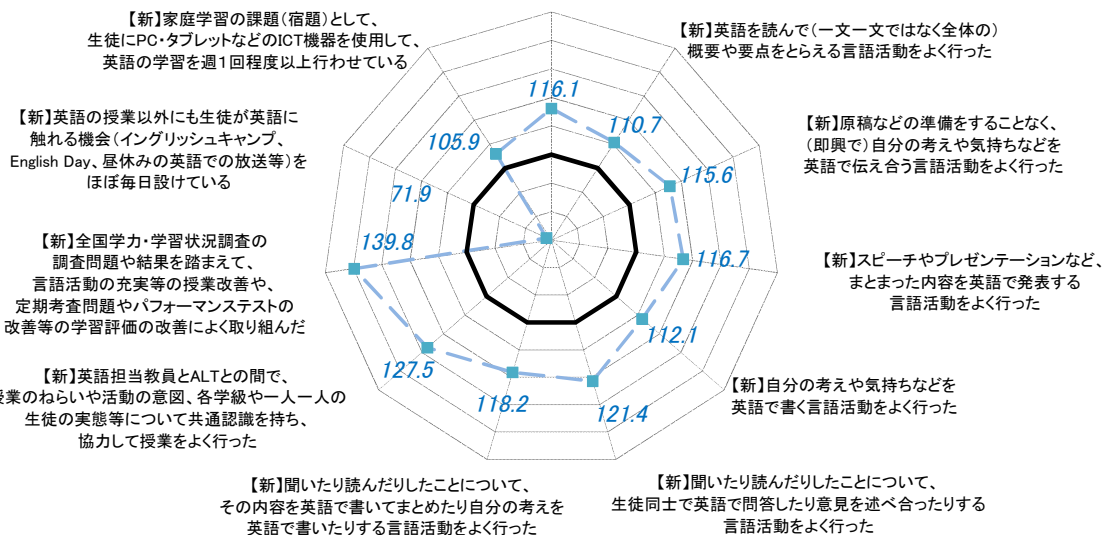
【新】(英語)家庭学習の課題(宿題)として、
児童にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、
英語の学習を週1回程度以上行わせている

【新】(英語)英語の授業以外にも児童が
英語に触れる機会をほぼ毎日設けている

中学校

—■— 北海道(公立)中
— 全国(公立)

【新】英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)
概要や要点をとらえる言語活動をよく行った



【新】家庭学習の課題(宿題)として、
生徒にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、
英語の学習を週1回程度以上行わせている

【新】英語の授業以外にも生徒が英語に
触れる機会(イングリッシュキャンプ、
English Day、昼休みの英語での放送等)
をほぼ毎日設けている

【新】全国学力・学習状況調査の
調査問題や結果を踏まえて、
言語活動の充実等の授業改善や、
定期考査問題やパフォーマンステストの
改善等の学習評価の改善によく取り組んだ

【新】英語担当教員とALTとの間で、
授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の
生徒の実態等について共通認識を持ち、
協力して授業をよく行った

【新】英語を読んで(一文一文ではなく全体の)
概要や要点をとらえる言語活動をよく行った

【新】原稿などの準備をすることなく、
(即興で)自分の考えや気持ちなどを
英語で伝え合う言語活動をよく行った

【新】スピーチやプレゼンテーションなど、
まとまった内容を英語で発表する
言語活動をよく行った

【新】自分の考えや気持ちなどを
英語で書く言語活動をよく行った

【新】聞いたり読んだりしたことについて、
その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを
英語で書いたりする言語活動をよく行った

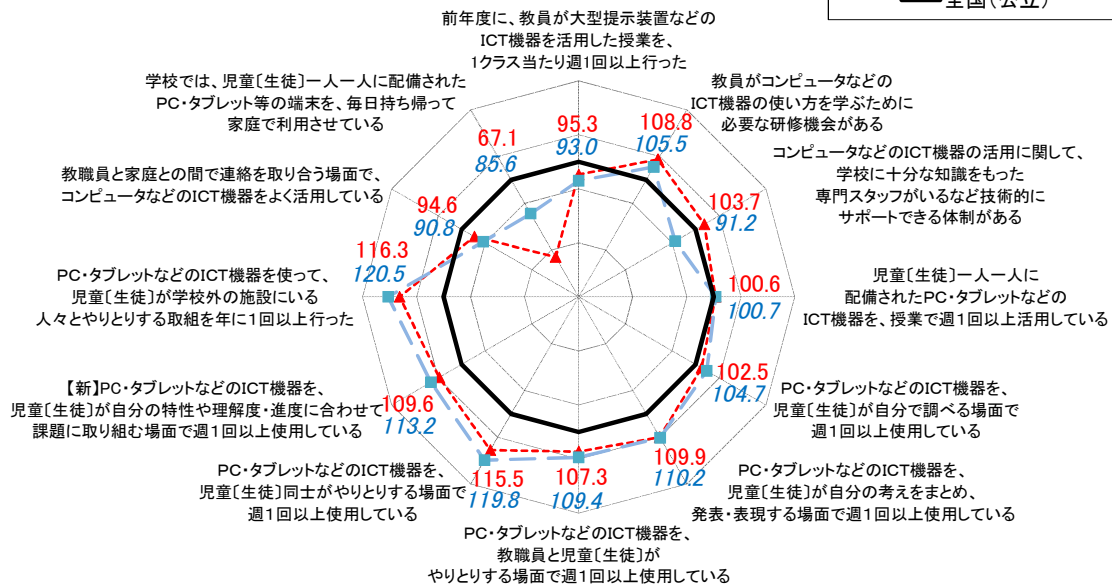
【新】聞いたり読んだりしたことについて、
生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする
言語活動をよく行った

- ◆小学校では、英語の指導方法に関する質問について肯定的に回答した学校の割合が、英語の授業以外にも児童が英語に触れる機会をほぼ毎日設けているの質問を除いた全ての項目で全国を上回っている。
- ◆中学校では、英語の指導方法に関する質問について肯定的に回答した学校の割合が、英語の授業以外にも生徒が英語に触れる機会(イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等)をほぼ毎日設けているの質問を除いた全ての項目で全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。

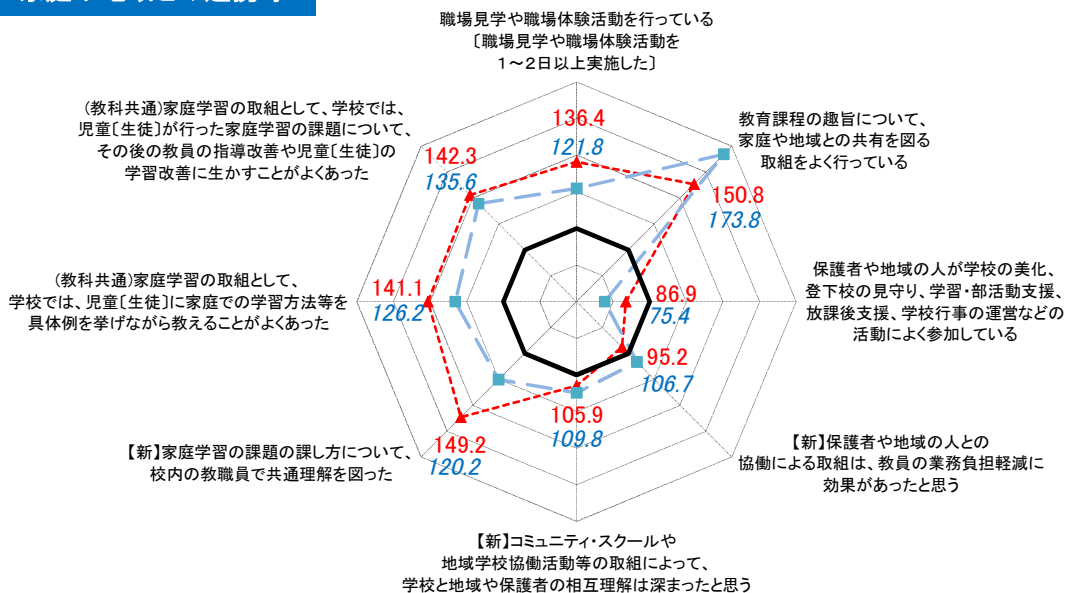
※ 数値は、「それぞれの学校の割合÷全国(公立)の学校の割合×100」で算出。

キ ICTを活用した学習状況



- ◆小学校では、ICTを活用した学習状況に関する質問について肯定的に回答した学校の割合が、前年度に、教員が大型提示装置などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たり週1回以上行った、教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をよく活用している、学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、毎日持ち帰って家庭で利用させているの3つの質問を除いた全ての項目で全国を上回っている。
- ◆中学校では、ICTを活用した学習状況に関する質問について肯定的に回答した学校の割合が、前年度に、教員が大型提示装置などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たり週1回以上行った、コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフがいるなど技術的にサポートできる体制がある、教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をよく活用している、学校では、生徒一人一人に配備された、PC・タブレット等の端末を、毎日持ち帰って家庭で利用させているの4つの質問を除いた全ての項目で全国を上回っている。

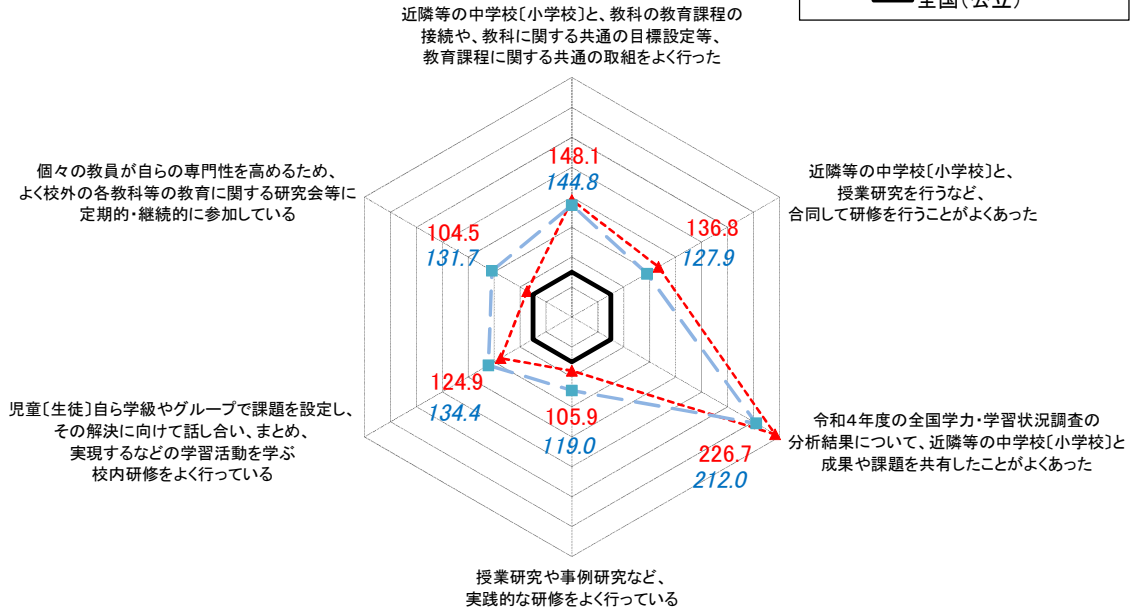
ク 家庭や地域との連携等



- ◆小学校では、家庭や地域との連携等に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活用によく参加している、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果があったと思うの2つの質問を除いた全ての項目で全国を上回っている。
- ◆中学校では、家庭や地域等との連携に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活用によく参加しているの質問を除いた全ての項目で全国を上回っている。

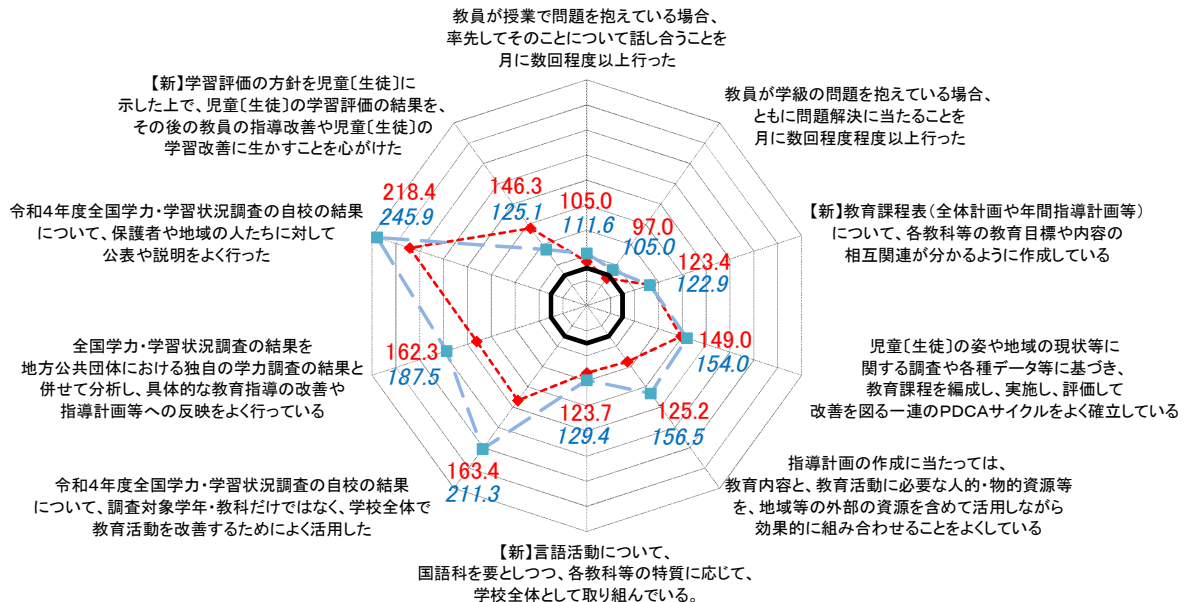
※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。
 ※ 数値は、「それぞれの学校の割合÷全国(公立)の学校の割合×100」で算出。

ケ 小中連携、教職員の資質向上



◆小・中学校ともに、小中連携、教職員の資質向上に関する質問に肯定的に回答した学校の割合が、全ての項目で全国を上回っている。

コ 学校運営に関する状況、調査結果の活用、学習評価



◆小学校では、学校運営に関する状況、調査結果の活用、学習評価に関する質問について肯定的に回答した学校の割合が、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月に数回程度以上行ったの質問を除いた全ての項目で全国を上回っている。

◆中学校では、学校運営に関する状況、調査結果の活用、学習評価に関する質問について肯定的に回答した学校の割合が、全ての項目で全国を上回っている。

※ 【新】と記載しているものは、今年度の新規項目。

※ 数値は、「それぞれの学校の割合÷全国(公立)の学校の割合×100」で算出。